





ですが、「鬼ごっこをすれば学級崩壊しない」という言葉を今でも心に刻んでいます。冗談のような、極論のような言葉ですが、自分なりに学級づくりがうまくいったと感じた年を振り返ると、子どもたちとたくさん遊んでいた

「子どもたちが楽しめるものか」

記憶が思い浮かびます。遊んだから学級がうまくいったのか、うまくいっている学級だから遊ぶ余裕があったのか。それは定かではありませんが、子どもと信頼関係を築くのに、私にとってもそれほど簡単な方法はありません。ですから、今も時間があれば一緒に体を動かし、子どもたちに負けじと本気で遊んでいます。

### ■「楽しい」と思える授業づくり

授業を考える際、大切にしていることは、「子どもたちが楽しめるものか」「自分がやっていて楽しいものか」という視点です。どのような実践にも、メリットとデメリットは付きものですが、自分が「楽しそう」と感じた実践は「取りあえずやってみよう」というスタンスで取り組んでみる人が多いです。次は、現在私が取り組んでいる授業づくりにおける実践です。

#### (1) 子どもによる司会型授業

本校の校内研究の中で、子どもが学び取る授業というものがありません。近頃よく言われる教師が話し過ぎない子ども主体の授業というのが、これに当たります。その実現に向けて取り入れているのが司会型授業です。授業が始

まると、その日の司会の子どもたちが前時の振り返りを行い、本時の課題はどうするか、学び方は何を選択するか、学び合いの時間は何分必要かなどをクラスの子どもたちに投げかけます。教師が進めた方が効率が良いと思う場面もあります。可能な範囲で子どもたち同士の対話を重視します。これを続けていくことで、自治的集団の実現が可能になると考えます。

#### (2) 自由進度学習と学び方の選択

算数の授業の中で取り組んでいる実践として、自由進度学習と学び方の選択があります。自由進度学習では、その単元で使える時間をあらかじめ子どもたちに伝えておき、いつまでにどのページを学ぶのかを計画させます。1時間で2時間分進む子どももいれば、1時間分の内容に2時間を使ってしまう子どももいます。この方法がうまく機能すれば、個別最適な学びの実現につながると考えます。

そして、自由進度学習と並行して取り組んでいるのが、学び方の選択です。その日の課題に対して、どのように学びを進めるのかを子どもたちに選択させています。1人で学ぶのか、友達と学ぶのか、先生にヒントをもらって学ぶのか、毎時間自己決定の場を設定し

ています。自己決定することで、ただやらされる勉強から、主体的に学び取る授業になっていくのではないかと考えます。

### ■おわりに

試行錯誤を繰り返す日々ではありませんが、目を通してくださった方の何かの参考になれば幸いです。貴重な機会を頂き、ありがとうございました。

「自分がやっていて楽しいものか」

